

Windows 実用講座

【第8回分科会のテーマ：－パソコン操作の Tips－】

今回は、パソコンの使い方を改善する技術を紹介します。

各項目に関して記載した内容を読んで、**【演習】**の赤字で記載した操作を実行してください。学習会当日はまず私が操作結果を表示して、その後皆さんにテキスト記載の操作をしていただき、何人かの方に Zoom の「共有」で見せていただきます。

なお、青字で記載した URL をクリックすると元のサイトに飛び、画像付きの詳細な記事を読むことができます。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1.フォルダーをタスクバーに「ピン留め」 | 5.タスクバーのカスタマイズ |
| 2.[ごみ箱]に入れる前の確認メッセージ | 6.ノート PC のバッテリーの確認 |
| 3.[既定のアプリ]の選択 | 7.マウスの設定を変更する |
| 4.右クリックの[送る]メニューに追加 | 8.スタートアップのオン/オフ切替 |

【具体的内容：－パソコン操作の Tips－】

1. よく使うフォルダーをタスクバーに「ピン留め」する

<https://dekiru.net/article/19212/>

【演習】「OneDrive」フォルダーをタスクバーにピン留めする。

- ① デスクトップにショートカットを作成する

デスクトップを右クリックして、[新規作成]-[ショートカット]の順にクリックします。

- ② [ファイルまたはフォルダーの参照]ダイアログボックスを表示する

[ショートカットの作成]画面が表示されました。[参照]ボタンをクリックします。

- ③ フォルダーを選択する

[ファイルまたはフォルダーの参照]ダイアログボックスが表示されました。ここでは OneDrive のフォルダーを指定します。フォルダーを選択して[OK]ボタンをクリックします。

- ④ ショートカットの場所を指定する

選択したフォルダーのパスが表示されました。ここで先頭に「explorer」と追加するのがポイントです。「explorer」の後ろには、必ず半角スペースを入れてください。[次へ]ボタンをクリックします。

- ⑤ ショートカットの名前を指定する

ショートカットの名前を入力して、[完了]ボタンをクリックします。

- ⑥ ショートカットを作成できた

指定したフォルダーのショートカットをデスクトップに作成できました。

- ⑦ タスクバーにピン留めする

作成したショートカットをタスクバーにドラッグしてピン留めします。

- ⑧ タスクバーにフォルダーのショートカットをピン留めできた

フォルダーのショートカットをタスクバーにピン留めできました。

⑨ 「ピン留め」したショートカットを開く

フォルダーのショートカットをクリックすると、先ほど指定したフォルダーが表示されます。デスクトップに作成したショートカットは削除して構いません。

- この裏ワザのポイントは、ショートカットの作成時に「explorer」と追記すること。これによって「explorer.exe」(エクスプローラーのプログラムファイル)を呼び出すショートカットとなり、タスクバーにドラッグして「ピン留め」できるようになります。

2. [ごみ箱]に入れる前に確認のメッセージを表示する

<https://dekiru.net/article/18782/>

【演習】[ごみ箱]に入れる前に確認のメッセージを表示するよう設定する。

① [ごみ箱のプロパティ]ダイアログボックスを表示する

[ごみ箱]を右クリックして[プロパティ]を選択します。

② 確認のメッセージを有効にする

[ごみ箱のプロパティ]ダイアログボックスが表示されました。[削除の確認メッセージを表示する]の項目にチェックマークを付けて、[OK]ボタンをクリックします。

③ ファイルを削除する

実際にメッセージが表示されるか、動作を確認してみましょう。ファイルを選択して[Delete]キーを押します。

④ ファイルの削除を確認するメッセージが表示された

確認のメッセージが表示されました。ファイルを削除するときは[はい]ボタン、削除しないときは[いいえ]ボタンをクリックします。

3. [既定のアプリ]の選択

<https://dekiru.net/article/18643/>

【演習】Web ブラウザーを、Google Chrome に変更する。

ここでは標準で使う Web ブラウザーを、Microsoft Edge から Google Chrome に変更する例を紹介します。Chromeに限らず、Windows 10 で使いたいアプリはあらかじめインストールしておいてください。

Windows 10 の[設定]画面はスタートメニューからでも表示できますが、[Window]+[I]のショートカットキーを覚えておくと楽です。また、[既定のアプリ]は[設定]画面を表示したあと、[アプリ]→[既定のアプリ]の順にクリックして表示しますが、以下の手順のように検索するとキーボード操作だけで済みます。

3.1 [既定のアプリ]を変更する

① [既定のアプリ]画面を検索する

[Window]+[I]キーを押して[設定]画面を呼び出します。そのまま「既定の」と入力すると検索ボックスに候補が表示されるので、[既定のアプリ]を選択します。

② [既定のアプリ]を変更する

[既定のアプリ]が表示されました。[Web ブラウザー]の[Microsoft Edge]をクリックして、[Google Chrome]を選択します。

③ 強制的にアプリを変更する

[切り替え前に]というメッセージが表示されました。このメッセージは、マイクロソフトが推奨するアプリ以外を初めて選択しようとしたときに表示されます。[強制的に変更する]をクリックします。

④ アプリが変更された

既定のアプリが変更されました。以降、WebサイトへのリンクをクリックしたときにChromeが起動します。

3.2 ファイルの種類から起動するアプリを選択する

ファイルの種類(拡張子)から起動するアプリを選択したいときも、[既定のアプリ]から設定します。[既定のアプリ]の画面にある[ファイルの種類ごとに既定のアプリを選ぶ]という項目から、該当する拡張子をクリックしてアプリを選択すれば OK です。

① [ファイルの種類ごとにアプリを選択する]画面を表示する

[既定のアプリ]の画面を下にスクロールして、[ファイルの種類ごとにアプリを選択する]をクリックします。

② アプリを選択する

[ファイルの種類ごとに既定のアプリを選択する]画面が表示されました。ここでは「.mp4」の拡張子を持つ動画ファイルを再生するアプリを変更します。目的のファイルの種類を探し、クリックして目的のアプリを選択しましょう。

➤ この設定は一度行えば、あとで繰り返し操作することはほぼありません。しかし、何かのアプリをインストールしたときなどに、意図せずに既定のアプリが変わってしまうことがあるため、その場合は再度設定するようにしましょう。

4. 右クリックの[送る]メニューに項目を追加する

<https://dekiru.net/article/18689/>

【演習】[ペイント]アプリと[ピクチャ]フォルダーを[送る]メニューに追加する。

4.1 [SendTo]フォルダーにアプリのショートカットを登録する

[送る]メニューに項目を追加するには、[SendTo]という特殊なフォルダーの内容を変更します。エクスプローラー(フォルダーウィンドウ)のアドレスバーに「shell:sendto」と入力して[Enter]キーを押しましょう。

続いて、エクスプローラーに表示された[SendTo]フォルダーに、アプリやフォルダーのショートカットを登録(配置)します。以下の手順では例として、[ペイント]アプリと[ピクチャ]フォルダーを[送る]メニューに追加します。

① [SendTo]フォルダーを表示する

エクスプローラーのアドレスバーに「shell:sendto」と入力して[Enter]キーを押します。

② [SendTo]フォルダーが表示された

[SendTo]フォルダーが表示されました。ここにアプリやフォルダーのショートカットを登録するので、そのまま表示しておきます。

③ [SendTo]フォルダーにショートカットを登録する

スタートメニューからアプリのアイコンを[SendTo]フォルダーにドラッグします。そして「リンク」と表示されている状態でマウスのボタンを離しましょう。

④ [SendTo]フォルダーにショートカットを登録できた

[SendTo]フォルダーにアプリのショートカットを登録できました。必要に応じて、ほかのアプリのショートカットも登録しておいてください。登録済みのショートカットのうち不要なものがあれば、[Delete]キーを押して削除します。

⑤ フォルダーのショートカットを登録する

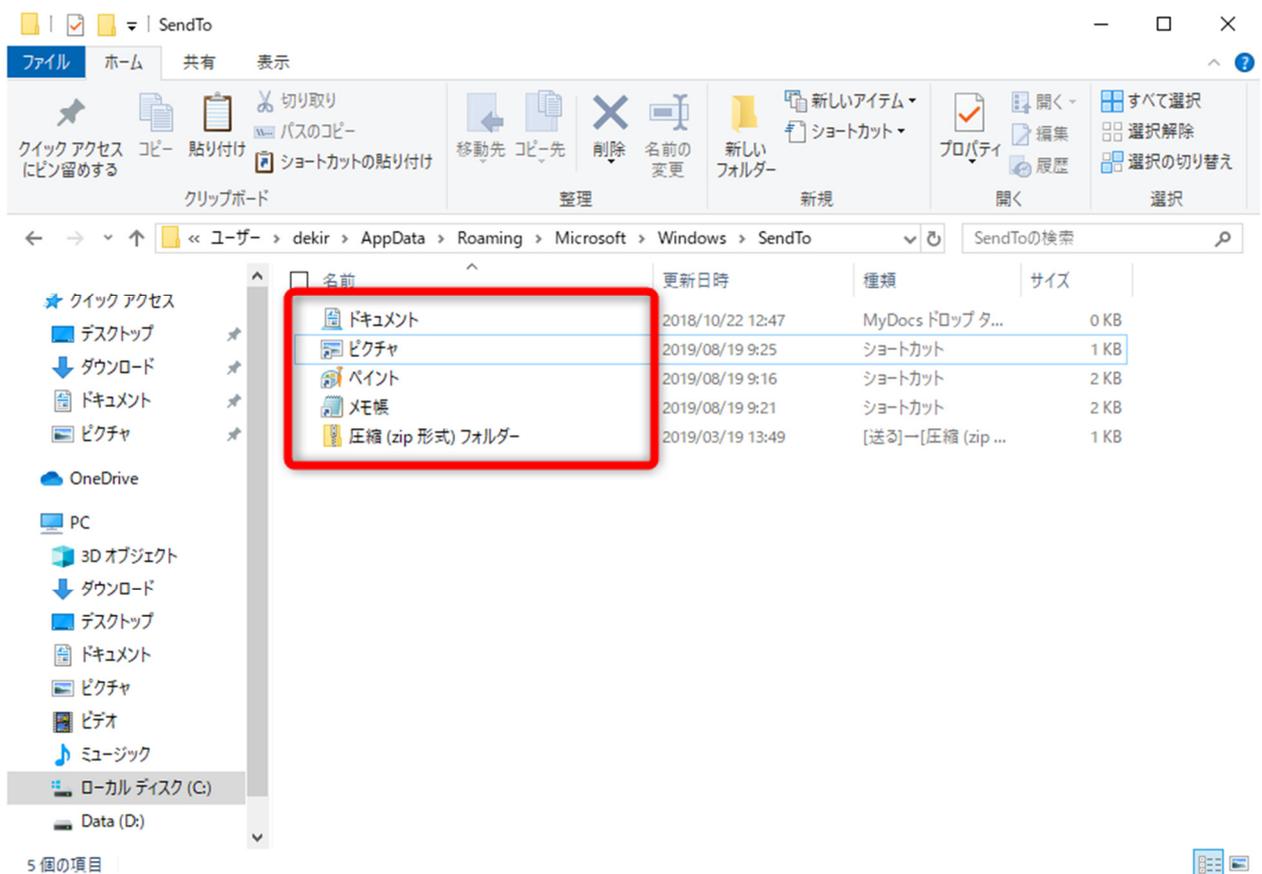
続けて[ピクチャ]フォルダーのショートカットを登録します。[Windows] + [E]キーを押して、エクスプローラーのウィンドウをもう1つ開きましょう。続いて、[ピクチャ]フォルダーのアイコンを[SendTo]フォルダーにドラッグします。

⑥ フォルダーのショートカットを登録できた

[ピクチャ]フォルダーを[SendTo]フォルダーに登録できました。名前の末尾に付く「 - ショートカット」は削除しておくといいでしょう。なお、もともとデスクトップなどにあったショートカットを[SendTo]フォルダーに移動・コピーしても OK です

4.2 カスタマイズした[送る]メニューを使ってみる

[SendTo]フォルダーの内容を以下のようにカスタマイズしました。さっそく[送る]メニューを使ってみましょう。



[SendTo]フォルダーの内容は上図のようになっています。

① デスクトップにある画像ファイルをダブルクリックすると、いつも通りに[フォト]アプリが起動して、画像が[フォト]アプリで表示されます。

② 今度は画像ファイルを右クリックして、[送る]→[ペイント]を選択します。

画像ファイル右クリックして[送る]メニューを見ると、カスタマイズした内容に変更されてい

ます。ここで[ペイント]を選択します。

③ すると、[ペイント]アプリで画像ファイルが表示されました。

④ さらに[送る]メニューを使って、画像ファイルを[ピクチャ]フォルダーへ送ってみましょう。

画像ファイル右クリックして、[送る]→[ピクチャ]の順に選択すると、画像ファイルが[ピクチャ]フォルダーにコピーされました。

▶ ほかにも、CSV ファイルを Excel ではなくテキストエディターで開きたいとき、動画ファイルの形式によって再生するアプリを切り替えたいときなど、たまに使うアプリを登録しておくと、[送る]メニューの活用シーンが広がります。ぜひ活用してみてください。

5. タスクバーのカスタマイズ

<https://dekiru.net/article/18898/>

【演習】タスクバーの構成を使いやすくカスタマイズする。

5.1. ボタンの結合を解除する

以前の Windows では、タスクバー上のボタン(タスクバーボタン)に開いているウィンドウの名前が常に表示されていたのですが、Windows 10 ではアプリごとに 1 つのボタンにまとめられ、マウスカーソルを合わせないと表示されない仕組みになっています。

これを解決するには、タスクバーの設定画面で[タスクバーボタンを結合する]を無効にします。

① タスクバーの設定画面を表示する

タスクバーの何も無いところを右クリックして[タスクバーの設定]を選択します。

② タスクバーの結合を解除する

[タスクバーボタンを結合する]の選択肢から[結合しない]を選択します。

③ タスクバーボタンの結合が解除され、ウィンドウの名前が表示されるようになりました。

5.2. タスクバーのサイズを変更する

タスクバーボタンの結合を解除しても、開いているウィンドウの数が増えると幅が狭くなって、やはり見にくくなります。タスクバーの高さを広げて、多段表示できるようにしてみましょう。標準では、タスクバーは動かないように固定されています。ロックを解除してからタスクバーの境界線をドラッグしてサイズを変更します。

① タスクバーのロックを解除する

タスクバーの設定画面を表示しておきます。[タスクバーをロックする]のスイッチをオフにします。

② タスクバーの高さを変更する

タスクバーのロックが解除されました。境界線を上にドラッグすると高さが広がり、ウィンドウの名前を表示する部分も広がります。

5.3. 不要なボタンを非表示にする

「ここに入力して検索」と表示されている検索ボックスは、大きなスペースを占有している割に、あまり使うことがない人も多いのではないのでしょうか。

また、音声アシスタントの「Cortana」(コルタナ)やタスクビューのアイコンも、実は使用頻

度の低い項目です。これらを非表示にするのも、タスクバーを使いやすくするうえで有効です。

タスクバーを右クリックしてメニューを表示します。[検索]から[検索アイコンを表示]を選択すると、検索ボックスをアイコンのみのコンパクトな表示に変更できます。また、[Cortanaのボタンを表示する]と[タスクビューボタンを表示]を選択してチェックマークを外すと、それぞれが非表示になります。

5.4. タスクバーを小さくする

タスクバー自体を小さくする方法もあります。デスクトップを広くしたいときには有効ですね。

- ① タスクバーの設定画面で[小さいタスクバーボタンを使う]のスイッチをオンにします。
 - ② タスクバーボタンが小さくなり、タスクバーの高さも低くなります。
- ▶ なお、タスクバーの位置は、タスクバーの設定画面にある[画面上のタスクバーの位置]で設定できます。ほぼ毎日操作するタスクバーは、ストレスのないようにカスタマイズしておきましょう。

6. ノート PC のバッテリーのヘタリ具合を確認する

<https://dekiru.net/article/19383/>

【演習】内蔵バッテリーのレポートの内容を確認する。

Battery report を使うには、「コマンドプロンプト」から機能を実行します。HTML ファイルとして出力されたレポートを Web ブラウザーで確認する流れです。

① [ファイル名を指定して実行]画面を表示する

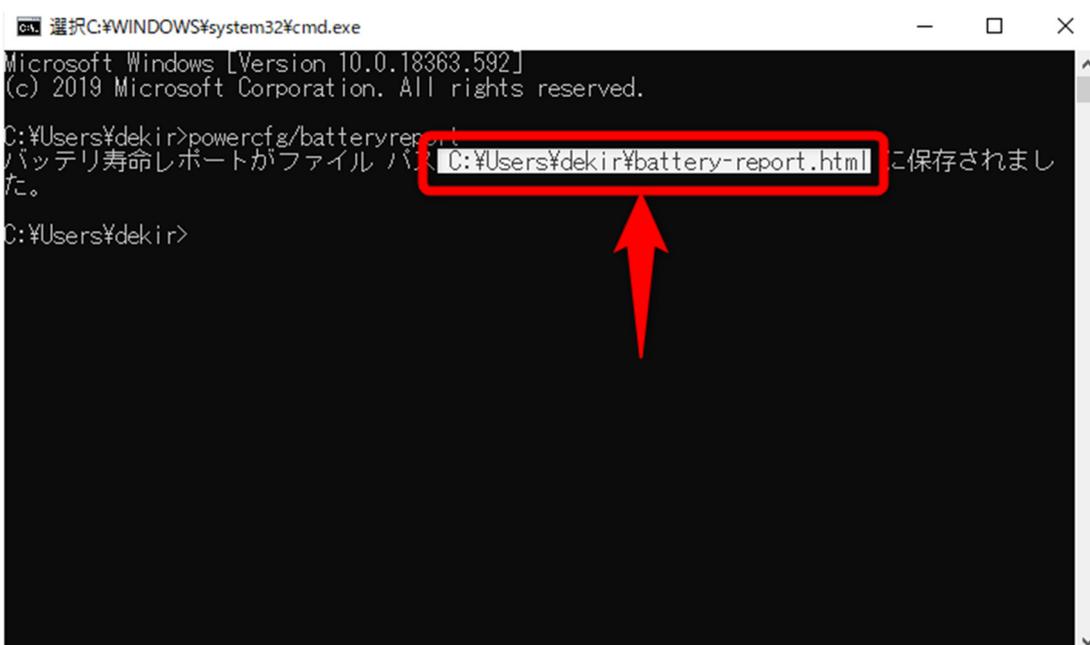
[Windows]+[R]キーを押して[ファイル名を指定して実行]画面を表示します。続いて「cmd」と入力して[OK]ボタンをクリックします。

② Battery report の機能を実行する

コマンドプロンプトが表示されました。「powercfg/batteryreport」と入力して[Enter]キーを押します。

「C:¥Users」に続く文字列が、HTML ファイルの出力場所(パス)です。

③ レポートの出力場所(パス)をコピーする



```
選択C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 10.0.18363.592]
(c) 2019 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\dekiru>powercfg/batteryreport
バッテリー寿命レポートがファイル パス C:\Users\dekiru\battery-report.html に保存されました。

C:\Users\dekiru>
```

正常に処理されると、上記の画面になります。レポートが HTML ファイルとして出力され、「C:\Users」から始まるファイルパス(ファイルの場所)が表示されています。「C:\Users」から「battery-repot.html」までをドラッグで選択し、[Ctrl] + [C]キーを押してコピーします。

④ レポートの内容を表示する

Microsoft Edge や Google Chrome などの Web ブラウザーを起動します。アドレスバーをクリックしてカーソルを表示し、[Ctrl] + [V]キーを押して先ほどコピーしたファイルパスを貼り付けましょう。続けて[Enter]キーを押します。

⑤ レポートの内容を確認する

レポートが表示されました。「Installed Batteries」(内蔵バッテリー)という項目の内容を見てください。「DESIGN CAPACITY」がパソコン購入時のバッテリー容量です。その下にある「FULL CHARGE CAPACITY」が現時点で満充電できる容量になります。

- 上記の例では、DESIGN CAPACITY が「32,830mWh」、FULL CHARGE CAPACITY が「28,100mWh」となっています。現在では、購入時の 86%程度になるまでバッテリーがへたっていることが分かりました。しかし、まだ交換するほどのへたり具合ではなさそうです！
- FULL CHARGE CAPACITY が極端に少なければ、バッテリーの交換時期だと判断できます。なかなか踏切りがつかない人は、この Battery report の結果を参考に判断してみてもいいでしょうか。

7. マウスの設定を変更する

<https://dekiru.net/article/19321/>

7.1 マウスホイールのスクロール量を変更する

【演習】マウスホイールのスクロール量を変更する。

マウスホイールを回したときのスクロール量は、好みが大きく分かれるところです。例えば、Web ページを見ているとき、スクロール量が少ないと記事を読み終わるのに何度もホイールを回すことになってしまいます。しかし、多くても読みたいところを通り過ぎてしまったりします。これを解決するには、マウスの設定画面を表示して[一度にスクロールする行数]を調整します。

① マウスの設定画面を表示する

[Windows] + [I]キーを押して設定画面を表示しておき、[デバイス]をクリックします。

② マウスのスクロール量を調整する

[マウス]をクリックします。[一度にスクロールする行数]にあるスライダーで、マウスホイールを回したときにスクロールする行数を設定できます。スライダーをドラッグしたときに表示される数字(行数)を目安にしてください。

- マウスホイールのスクロール量は、標準では「3」行に設定されていますが、もう少し多くてもいいでしょう。例えば「5」~「8」行に設定して、どれくらいのスクロール量になるかを確認してください。スライダーをドラッグすると、すぐに設定が反映されます。
- なお、スライダーの下にある[ポイントしたときに非アクティブウィンドウをスクロールする]のスイッチは、操作していないウィンドウのスクロールを有効にするかどうかの設定です。有効にしておくと、背面にある Excel の画面をスクロールして数字を見ながら、前面の

Word ファイルで書類を作るといった作業が便利になります。

7.2 ダブルクリックの速度を変更する

【演習】ダブルクリックの速度を変更する。

マウスのダブルクリックの速度を見直します。こちらでも変更していない人がほとんどだと思いますが、パソコンの使用感が変わります。

① [マウスのプロパティ]ダイアログボックスを表示する

マウスの設定画面で[その他のマウスオプション]をクリックします。

② ダブルクリックの速度を設定する

[マウスのプロパティ]ダイアログボックスが表示されました。[ボタン]タブの[ダブルクリックの速度]のスライダーをドラッグします。スライダーの右側にあるフォルダーのアイコンをダブルクリックして、どれくらい変わったかを試してみましょう。遅めならダブルクリックが簡単になり、速めなら間違っただブルクリックしてしまうことを防げます。

7.3 マウスポインターの動作を設定する

【演習】マウスポインターの動作を設定する。

マウスを動かしたときのポインターの速度も、パソコンの使い勝手に直結します。以下の方法で調整しましょう。

① マウスポインターの速度を変更する

[マウスのプロパティ]ダイアログボックスの[ポインターオプション]タブにある[速度]で、マウスポインターの速度を設定できます。速さを試したいときは[適用]ボタンをクリックしましょう。設定が完了したら[OK]ボタンをクリックします。

② ポインターを自動的に既定のボタンの上に移動する

ダイアログボックスなどが表示されたとき、[OK]や[キャンセル]などのボタンに自動的にマウスポインターを合わせる機能の有効・無効

③ ポインターの軌跡を表示する

マウスポインターの残像を表示する機能の有効・無効

④ 文字の入力中にポインターを非表示にする

文字の入力中にマウスポインターを表示したままにする機能の有効・無効

⑤ Ctrl キーを押すとポインターの位置を表示する

[Ctrl]キーを押したときにマウスポインターの位置を強調する機能の有効・無効

➤ なお、マウスホイールのスクロール量は、[マウスのプロパティ]ダイアログボックスの[ホイール]タブでも設定可能です。マウスの動作をカスタマイズして、毎日の操作を快適にしてみてくださいね。

8. スタートアップのオン/オフを切り替える

<https://dekiru.net/article/18532/>

【演習】スタートアップのオン/オフを切り替える。

[スタートアップ]は、パソコンの起動と同時に、自動的に起動するプログラムを管理する機能です。Windows 10 の[設定]画面から[アプリ]→[スタートアップ]の順にクリックすると、設定を変更できます。

① [アプリ]の画面を表示する

[Windows]+[I]キーを押して[設定]画面を呼び出し、[アプリ]をクリックします。

② 不要な[スタートアップ]を解除する

続けて画面左側の[スタートアップ]をクリックすると[スタートアップ]に登録されているアプリが表示されます。画面右側のスイッチをオフにすれば、[スタートアップ]を解除できます

- むやみに[スタートアップ]を解除するのは厳禁です。よくわからない場合はオンのままにしておくべきでしょう。

例えば、オーディオ(「Realtek HD オーディオマネージャ」等)の[スタートアップ]をオフにしてしまうと、パソコンの音が鳴らなくなってしまう。スイッチの下にある「影響:小」「影響:大」などの表示も目安にしてください。

- [スタートアップ]に登録したいときは？

常に起動するアプリが決まっている場合は、[スタートアップ]に登録することもできます。目的のアプリのショートカットを作成して、[スタートアップ]フォルダーに登録します。詳しい手順は以下の関連記事を参考にしてください。

[Windows の起動時によく使うアプリを自動起動！「スタートアップ」への登録方法](#)

- Web ブラウザーやオフィスソフトなど、パソコンで必ず使うアプリは自動的に同時に起動したほうが便利です。アプリのショートカットを「スタートアップ」に登録することで、Windows 10 の起動と同時にアプリも起動するようになります。

以上

【Windows Tips まとめ】

<https://dekiru.net/category/series/windows-tips/>